

特定非営利活動法人びーのびーの 2021 年度事業報告書

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

第1 1年を振り返って

新型コロナウイルス感染症による活動の影響を受けながらもそれぞれの事業においてフォロー体制を充分補完しながら、子育て家庭や利用者のために場を開き続けることができた1年であった。

「菊名ひろば」や「どろっぷ、どろっぷサテライト」は場を開きつつも、戸外活動を保障するために菊名ひろばでは公園遊びを毎月定例で開催したり、どろっぷでは子育てパートナーが公園めぐりを定期的に巡回したり、両親教室のみならずできるプログラムはすべてオンラインを導入して場に来づらい層に積極的にアプローチできた年だった。

どろっぷ、どろっぷサテライトでは拠点併設型の一時預かり事業として「ひととき預かり」が夏からスタートし、緊急枠1枠と通常枠2枠の計3枠の受入れに対し、日々3、4倍以上のニーズに対応してきた半期であった。

その一方で2～3歳児を対象にした「グループ預かりまんまー大倉山」が3月末をもって活動を終了することになった。活動場所を年度途中で移転してさえも利用家庭は変わらず継続して下さり最後の保育の日まで、親子との関係性を大事に地域の中で親も子も育ちあう温かい預かりを实践できた活動だった。自主事業として法人内で長年、大事にしてきた活動だったがゆえに、結果的に場所は違っても、他事業にその種を飛ばしつつ、事業継承できたことは大きな成果だった。

「ちいさなたね保育園」はこの4月からの全年齢児が揃うまでの移行年として、常に保育のあり方を検証し、保護者や地域支援者との関係性を強めながら、その取り組み実践が対外的にも多く着目され、貴重な活動の軌跡となった。

「産前産後ヘルパー派遣事業」は延べのヘルパー登録が約70人にもなり、コロナ禍ではあるが出産育児を夫婦のみで乗り切ろうとする層が全体の2割になっていることから、その高まるニーズに懸命に対応してきた。休眠預金助成事業による『新生児ファミリーミニステイを実現するためのプラットフォームづくり』に大きく影響する事業でもあるが、この助成事業の2年目の取り組みも、法人の理念である子育ての社会化、地域全体での子育て支援への実現に向けて大事な布石となる1年であったと思われる。

就労人口が年々増える一方で働き方の多様性や地域に関心を向ける層が世代を超えて多くなってきたことも確かで、「地域remix」の企業連携やまちづくりのための中間支援的機能に対し、関心を寄せる層も増えてきた。拠点やひろば利用を入口にその先に地域remixのような制作物や研究組織、学会の事務局機能などにもコミットできることが、着実に地域貢献できるチャンネルとして、法人への関心者、参画者を増やす可能性になったことを、この1年はとくに感じられたことである。

「COCOしのはら」、「COCOひよし」については、港北区南北地域にそれぞれの特性にあった運営形態で居場所を運営していることで、場所を活用してネットワークを広げようとしている団体、組織に場を開放していくことや、様々な持ち込み案件に対応するなど、エリアマネジメントを推進する企業や学校関係など他セクターとの交流が増え、新たな出会いと学びを法人全体に波及してくれた自主事業として貴重な運営であった。

びーのびーの活動は港北区を地域として根ざそうとしているが、区内でもそれぞれの持つ地域特性や事業形態の特色、そしてその事業を支えるスタッフ、ボランティアの主体性を第一に大事にしてきた。その一方で事業間をつなぐ存在として、常にインターン学生をはじめとする横断的に行き交う職員とくに、「法人事務局」の後方支援が重要視されてきている。コロナ禍で延期していた法人内合同研修も1月に再開することができた。アフターコロナ下での活動強化の必要性をとくに年末から感じてきた中で、初めて手掛けて作成してきた『法人中期計画目標』は、毎月の運営連絡会や役員会などで活発に意見を交わしつつ、その策定に注力した下半期でもあった。

職員110名、謝金対象者200名を超え、一般事業主行動計画も掲げ、様々な規定も整備しながら『働きやすい職場づくり、参画しやすい法人活動』を目指して、日々の運営をマネジメント的視点でサポートして下さる土業の方々の厚きご支援にこの場を借りて感謝をお伝えしたい。

第2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市委託事業 親と子のつどいの広場事業）

(1) 基本データ

1 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
2 実施場所	横浜市港北区篠原北1-2-18
3 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 奇数月、6月、10月 第3土曜日 10:00～12:00 マタニティソーイング 12:30～15:30 土曜ひろば
4 従業員数	8名
5 事業概要	<ul style="list-style-type: none">・子育て親子の交流、集いの場の提供・産前から産後への切れ目のない支援・子育てに関する相談の実施・地域子育て関連情報の収集及び提供・子育て及び子育て支援に関する講習の実施・一時預かりの実施
6 利用者数	年間利用者数 2598組 1日平均 10.7組

(2) 報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

予約制で人数制限があるひろばだったが、利用してくれた親子が互いに声をかけ合いながら、子どもたちの成長を共に見守り合い緩やかなひろばの雰囲気作りができた。話の中で子育ての悩みなど利用者同士が語り合うプチ座談会がおこなわれることもあった。土曜ひろばを年8回実施。パパ講座を開催したことで土曜ひろばはパパとの利用が増えた。広報紙『びーのびーの通信』年6回発行。

2) 当事者性を大切に

予約制のひろばなので、スタッフがひとりひとりの親子とゆっくり話をするのができた。当事者性を大事に今できることを話し合うフリーミーティングを年7回リアルとオンラインで開催した。ひろば利用者アンケートを実施し、親子に寄り添い、安心して過ごせる場所を目指した。

3) 座談会

子育てを楽しむ「パパ講座」を実施。パパが地域の仲間と繋がるきっかけをつくった。
0才児向け座談会を10回開催した。子育てや家族について語り合える時間をつくった。

4) 産前から産後への切れ目のない支援

区の妊娠期支援事業として、（マタニティソーイング：スタイ作り）を土曜日に年8回実施した。
出産にむけての悩みや不安に寄り添い、出産・育児に前向きになれる時間となった。赤ちゃん人形を使って抱っこやオムツ交換、服の着替えを体験する時間もつくった。
地域の両親教室にも1回参加し、顔を知ってもらうことで産後のひろば利用につなげた。

5) ひろばと地域を結ぶ

篠原町ねむの木公園で毎月「お外で遊ぼう」公園遊びを開催。ひろば利用がない地域の親子の参加も増え、その後ひろば利用に繋がった。

秋からは地域のサロンが再開し、イベントが開催され参加をした。

『地域連絡会』は中止となったが、参加予定だった関係機関や地域のみなさんには活動報告書を郵送し、意見を頂いた。

6) 一時預かり

スタッフ間の連携を密にし、親子に寄り添ったひろばらしい一時預かりをおこなった。預かり専任スタッフを配置することで、安定的な預かりをおこなった。安全（ヒヤリハット）についてスタッフの意識が向上した。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

	どろっぴ	どろっぴサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜～土曜 9:30～16:00 (隔月1回日曜開館あり・祝日と年末年始及び特別休館日を除く) 4月1日～ 利用制限30組。食事時間の限定再開(12:00～13:00) 8月31日～ 緊急事態宣言により、利用制限25組。 10月1日～ 利用制限30組。食事時間の限定再開(12:00～13:00) 1月21日～ 利用制限30組。 3月22日～ 利用制限30組。まん延防止等重点措置の解除より、昼食時間の限定再開(12:00～13:00)	
④ 従業員数	29名	19名
⑤ 事業概要 【7機能】	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の居場所 ・子育て相談 ・情報収集、提供 ・ネットワーク ・人材育成 ・利用者支援事業(一時預かり事業) ・横浜子育てサポートシステム(以下:子サポ) 	
⑥ 利用者数	どろっぴ 13,419組 1日平均55組 どろっぴサテライト 14,578組 1日平均60組	

(2) 報告

- 1) 「どろっぴ子育て当事者による運営会議(どろっぴみらいカフェ)」を試行実施し、様々な属性を持つ利用者が参画してくれた。プログラム上の課題提起や運営推進上の提案等を積極的に発信してくれたことで、次年度の継続開催に向けた基盤づくりができた。
- 2) 拠点に来館しづらい層へのアプローチとして、地域の公園まわり等のアウトリーチを行い、親子のニーズを聴くとともに、拠点プログラムや子育てパートナーの相談に繋がった。オンラインひろばの実施により、転入予定の家庭や妊娠期家庭の来館前の利用に繋がった。また、綱島地区センターや横浜ラポール等で拠点プログラムを実施することで、拠点から離れた地域に住む子育て家庭も参加することができた。
- 3) ボランティアを希望する方が増えてきたため、拠点内の活動内容を一元化したリーフレットを作成し、意向を聞いたうえで、多種多様な拠点内の活動や地域活動等に繋がった(年間延べ1,840名がボランティアとして活動)。
- 4) 相談利用できる環境としてメール・オンライン相談、商業施設で出張相談を実施し、利用者ニーズに応じて様々な場の設定をした。多様な相談ニーズに対応する為、医療的ケア児等CO、面会交流支援団体、マザーズハローワークなど他機関との情報共有の場を持つことができた。
- 5) 広報誌を季刊誌に変更し、HPのカレンダー表記などの見直しを行うとともに、HPの全面改訂を実施したことで問合せ件数も増えた。また、拠点に収集された情報については、SNSツールを使い分けて発信し、募集人数・公共性の高いものをココアプリにて広く配信した。
- 6) 一時預かり事業については、子育てパートナーが預かりの主訴や背景などを丁寧に聞くとともに、一時預かり事業と子サポ事業との連携により、連続性のある預かりが実施できた。また、申込のシステム化を行い利用者の利便性を図るとともに、拠点の多機能化が図られたことで、重層的な支援体制を整えることができた。
- 7) 子サポ入会説明会をオンライン化することで、来館しづらい層への参加に繋がるとともに、予定者研修をコロナ禍でも広い会場で2回開催し、他区開催を含めて新提供、両方会員が43名増えた。また、全会員に向けた年度更新手続きの案内を封書から葉書に変更したことで事務を効率化できた。
- 8) 学生の活動を継続実施していくために、人数を限定した活動やオンラインでの参加の場を設けた。
- 9) 地区の防災訓練への参加や家庭防災員との連携等による防災・災害対策の取組を推進した。
- 10) 障がい児グループ支援「ななつから…」が主体となり、リーフレットの改訂やInstagramの立上げとともに、子育て家庭の地域課題を踏まえたオンラインセミナー等を関係機関の応援のもと実施した。

2. 子育て支援に関する事業

① グループ預かり「まんまーる大倉山」

(1) 基本データ

① 対象	おおむね2～3歳（各曜日:8名、一時預かり:各日1名～2名）
② 実施場所	前期（4～8月）横浜市港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205 後期（9～3月）横浜市港北区大倉山7-3-3 ギャラリーカフェ夢うさぎ
③ 開催日時	前期：月曜・火曜・金曜 後期：月曜・金曜 9：30～13：00
④ 従業員数	前期：6名・後期：5名
⑤ 事業概要	幼稚園・保育園に入園前の子ども（2歳・3歳）を対象としたグループ預かり。登録制。
⑥ 利用者数	前期 月:6名 火:7名 金:8名 / 後期 月曜:8名 金曜:8名

(2) 報告

- 子ども一人ひとり、更に親子のペースを大切にすることを目指した。
 - ・コロナ禍でお迎え時は保護者が一人ずつ入室（個別お迎え）にした。預かり後や月1回の振り返りミーティングでのスタッフ振り返りにて親子の様子を共有。緊急時の体制を整え安全な預かりを行なった。
 - ・後期に移転した後も保護者は快く送迎してくださり、子どもたちは新しい場所でのびのびと遊び、初めての公園への散歩も楽しんでた。
- お迎え時に安心して話せる環境を提供し、話しづらそうな保護者へフォローした。今年度はコロナ禍のためミニミニ井戸端（座談会）を中止した。
- HPをわかりやすく提供しグループ預かりを探している人達に情報が届くようにしたが、後期はスペース的な問題もあり増員はできなかった。
- どろっぴ利用者が多く、ひろばでの様子を含めてひろばスタッフと共有できた。
- スタッフ全員で相談しながらまんまーるの預かりを進めた。遊びのアイデアや環境など全員で意見を出し合い改善。預かり中はスタッフ同士で声を掛け合い、常に確認する姿勢をとった。
元利用者の方4名が、前期から引き続き散歩のサポートとしてかかわってくださった。
- 8月磯部マンションから夢うさぎへ引っ越しの際は、法人に関わる方たちのご協力も得て無事に行なうことができた。3月末、グループ預かりまんまーるに関する備品等は法人内各所にて有効活用されている。

② 産前産後ヘルパー派遣事業（横浜市委託事業）

(1) 基本データ

① 対象	横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 （1）妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 （2）出産後5か月（多胎児の場合は出産後1年）未満で、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 ※自主事業に限り、1歳未満まで利用可能
② 実施場所	主に利用者の自宅（利用者の外出付き添い・買い物は可能）
③ 業務時間	市事業：月曜～金曜 9：00～17：00（12/29～1/3・祝日は除く） 自主事業：月曜～日曜 9：00～19：00（12/29～1/3・祝日は除く）
④ 従業員数	5名（ヘルパー57名）
⑤ 概要	対象世帯に対して、登録の家事・育児ヘルパーを派遣する。 横浜市委託事業の他、自主事業も行う。
⑥ 利用者数	利用回数 2378回（うち自主事業分 420回）

(2) 報告

1) 活動数

活動開始から3年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症拡大防止策が打ち出される中、産前産後家庭からのニーズは増え続け、年間で約2400件の活動を行った。月平均200件の活動であり、今の社会に必要なサービスに定着してきた。

2) ヘルパー登録者

あらたに18名の登録。事業開始から延べ人数81名、実働57名（内スタッフ9名）※退会者20名、休止4名。英語・仏語等が話せるヘルパーも所属。外国に繋がる家庭への対応も可能となった。

最初は「掃除やあかちゃんのケアを中心に」と登録した方も、「簡単な料理ならやりますよ」とやってくれるようになり、調理可能な方の実数も増えてきた。お子さんが幼稚園に行つてすぐの方、お孫さんがいらっしゃる方、お子さんがいらっしゃるが子育て支援がしたい方など、多様な方が登録して活動してくれている。

3) ヘルパー研修

引き続きオンラインを活用した研修を実施した。

5/15 オリエンテーション

7/13 感染症対策・熱中症対策研修（高橋保健師）

7/19 簡単調理講座（ちいさなたね保育園 深谷管理栄養士）

2/15 ヘルパー交流会

毎回15～20名程度の参加。最後のヘルパー交流会は30名参加。

4) 自主事業・・・4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施 休眠預金助成金事業を参照

休眠預金等活用事業でコロナ緊急支援枠を活用し、市事業では範囲外である時間外・土日祝日・回数超の活動をコーディネートし、支援が必要な家庭に提供することができた。トライアル事業のメールでの問い合わせ30件。無料トライアルは特に産院から利用者への紹介として利用しやすかったとのこと。

5) 育児支援ヘルパー

1件受託。保育園の送迎支援。3ヶ月で母が保育園に一人で子どもたちを連れていけるようになり終了。

6) 他事業との連携

子育てサポートシステム提供会員も兼ねたヘルパーを紹介し、子育てサポートシステムの活動と併用しながら利用者のニーズに沿った支援ができるよう対応した。産前産後ヘルパー事業終了後の子育てサポートシステム利用にもつながった

7) スケジュール管理

データで行うことにより、その後の請求作業にも繋がりスムーズになった

8) コーディネーター研修

8/23,24「子育て支援員研修」受講 ※実地研修として10/14 みやした助産院実習

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	12名（内 謝金活動者2名）
⑤ 事業概要	<p>1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業 (ア) 「ビーのビーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」の制作・販売 (イ) 制作・企画 各種制作（チラシ、冊子、パンフレットなど）、港北区子育て応援マップ紙版ココマップの制作（横浜市港北区社会福祉協議会協働事業、）イベント企画・実施 (ウ) Web制作・運用 港北区子育て応援サイト「ココマップ」の編集・制作・運営（横浜市港北区社会福祉協議会協働事業）、トレッサ横浜HP内ブログ「とれおんパーク」記事制作・管理（トレッサ横浜委託事業）、たんぼぼ保育園HP管理・ブログ記事制作、HP制作 (エ) 書籍販売</p> <p>2) 企業リミックス 子育て支援における企業との連携・支援 「子育てと仕事の両立支援研修～家族シミュレーション」など企業への提案・協働しての取り組み、企業から持ち込まれる協働・共創の案件</p> <p>3) 人材リミックス 人材発掘・スキルアップに関することを行う。</p> <p>4) 信頼リミックス 任意団体・学会等の事務局委託 (ア) 子どもと保育総合研究所事務局 (イ) 子どもと家族支援研究センター事務局 (ウ) 国際校庭園庭連合日本支部事務局 (エ) 一般社団法人ラシク045事務局 (オ) 一般社団法人全国子育てタクシー協会事務局</p>
⑥ ガイド発行	ビーのビーの幼稚園・保育園・認定こども園ガイド 2022年度版 1500部

(2) 報告

1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業

当事者や多様な立場の人とつくる継続的な活動への場づくりとして以下を制作。

- (ア) 「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」制作において、地域 remix のガイド担当がこれまで行っていた作業をガイドサポートメンバーに一部移管した。それにより、スタッフの負荷を軽減するとともに、参画意欲のあるサポートメンバーの活躍の場をつくり、個々のスキルアップにつながった。
- (イ) ・2015 年度から毎年制作した地域まるごとケア・プロジェクト報告書（にっぽん子ども・子育て応援団発行）及び 2015 年度から 2021 年度までの振り返り報告書を制作。
 - ・横浜信用金庫大倉山支店店頭に掲示するポスターを制作。地域貢献のサポートを行なった。
 - ・港北区子育て応援マップ紙版ココマップ制作において、子育て中のママである編集メンバー、日ごろ子育て家庭と接している主任児童委員の意見を取り入れ、ニーズに合ったものを制作中。（2022年9月発行予定）編集メンバーが積極的に制作に関わった。
 - ・毎月オンライン園活セミナーを開催。園活スケジュールに併せて、初めて園活をする方対象の内容から復帰前準備まで内容の違うセミナーを開催したことで、1 度参加した方が次のセミナーに参加してくれ、後半は満席になった。また、園活の先輩としてセミナーに協力してくれた方々もまた参加したいと言って複数回参加してくれた。先輩ママ・パパがご自身の経験談を現在園活しているママ・パパに伝え、今度はまたその人たちが次の人たちへ経験談を伝えるという、地域でつないでいくことができた。
 - ・コロナ禍のため、例年トレッサ横浜で行なっていた一度に大勢の子育て家庭を集める形式のイベントはできなかったが、園探しをする家庭向けに園情報のパネル展示を行なった。会期中の週末は横浜子育てパートナーと地域 remix スタッフが相談対応をし、不安な気持ちを和らげた。また、初めて子育て家庭向けの防災イベントを行ない、来場者への情報提供だけでなく、トレッサ横浜店舗との関係性も構築できた。
 - ・横浜市幼稚園協会都筑支部主催の園情報展示イベント開催に併せて、都筑支部加盟園を紹介するリーフレットを制作し、園選びの一助となった。そのリーフレットが高く評価され、横浜市幼稚園協会広報部が加盟園全園にリーフレット制作先としてびーのびーを紹介。
- (ウ) ・地域の子育て中のデザイナーによりサイト版ココマップを改訂。ココマップ編集メンバーが主体的に改訂作業に関わる体制を作ったことで、地域 remix スタッフと編集メンバーが 1 チームになって作業を行うことができた。
 - ・トレッサ横浜HP内ブログ「とれおんパーク」において、毎月コンスタントに 14 本の記事を制作。子育て中のママがテナントを取材して紹介することにより、当事者目線の記事を発信し、トレッサ横浜様に評価していただけた。
 - ・インスタで情報発信を行った。
- (エ) HP 内のびーのマルシェでのネット販売により港北区に転入する方だけでなく、コロナ禍で外出を控えている方も『びーのびーのガイド幼稚園・認定こども園・保育園ガイド』をクレジットカード決済で気軽に購入できるようになった。

2) 企業リミックス

- ・(株) オージス総研より子育て送迎シェアアプリ「タクアス」事業実証事務局の依頼を受け、事業実証の周知、事業実証運営業務を行った。
- ・トレッサ横浜担当者とは毎月打ち合わせを行うことで信頼関係が一層築けた。
- ・野村不動産のプライドシティ日吉販売ギャラリーで購入者向けに地域情報コンシェルジュとして個別に地域や子育ての相談対応を行なった。一般社団法人 ACTO 日吉では理事、コアパートナー部会長として、エリアマネジメントに主体的に関わった。
- ・「子育てと仕事の両立支援研修～家族シミュレーション」が企業の 2022 年度社員研修として取り入れられることになり、地道な営業活動がようやく実を結んだ。

3) 人材リミックス

- ・コロナ禍であったが、学生の実習受入をコーディネートし、各事業で活動できた。
- ・子育て中のママたちが積極的に活動できる場を提供。チラシやHP制作、ガイド制作、ココマップ編集メンバーとして参画意識を持ち、社会貢献の機会を持つことができた。特に制作においては、フリーランスのクリエイターが個々の特性を発揮し、さまざまな成果物を生み出すことができた。
- ・プロボノグループ「Now プラス」のメンバーとオンラインで情報交換の場を持った。企業に勤めながら地域に貢献したいと思っている人材が活躍できる場を提供。アドバイザーや講師としても活躍してもらった。

4) 信頼リミックス

- ・新たに一般社団法人全国子育てタクシー協会事務局を受託。子育てタクシー登録会社や子育てタクシー養成講座増加に貢献。

- ・新たに一般社団法人ラシク O45 の事務局業務を受託。
- ・既存の事務局請負を着実にこなし、信頼を得ている。
子どもと保育総合研究所、国際校庭園庭連合日本支部、子どもと家族支援研究センター「こもれび」

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	9名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等 ・絵本の会 ・助成金・企画事業

(2) 報告

1) 取材、見学対応

法人が運営する子育て支援施設（おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぴ）、地域福祉・交流スペース（COCO しのはら）、グループ預かり「まんまーる」、子育て支援スペース（COCO ひよし）で施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用されている。

2) 外部講演会講師

聖心女子大学 4 年生への講義講師／さくらザウルススタッフ研修講師／神奈川県生涯学習指導者研修「家庭教育支援コース」講師／新潟県家庭教育支援実践研修講師／ポポラ常勤職員研修講師

3) 外部委員会出席等

内閣府 子ども・子育て会議／内閣府 地方創生×少子化対策委員会／厚生労働省 成育医療等協議会委員／厚生労働省「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」評価委員会委員／文部科学省 「教育と福祉の連携による家庭教育支援事業」事業選定・評価委員／横浜市社会教育会委員／港北区「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 委員／港北区 ボランティアセンター運営委員会／港北区社会福祉協議会 評議員／神奈川県立 港北高校 学校評議員／横浜市立大曾根小学校 学校運営協議会委員会／住友生命 未来を強くする子育てプロジェクト実行委員会／年賀寄附金委員評価委員／ヨコハマアートサイト 2019 選考委員会／横浜市バリアフリー検討協議会／横浜市福祉のまちづくり推進会議 等

4) 絵本の会

コロナ禍により活動が難しい中、法人内で今後の活動方針について話し合いが行われ、新たなメンバーも参加し、活動が継続されることとなった。

5) シェアねっと

ひとり親支援として、配食提供の取組（シェアねっと）を他機関とも連携しながら広報周知ができた。年間のべ約 240 の食品セットを利用家庭に届けた。

（区内放課後キッズ、横浜労災病院、セカンドリーグの協力など）

6) 助成金・企画事業

(ア) 新生児家庭を育む「新生児ファミリーミニステイ」実現のためのプラットフォームづくり

（休眠預金活用による NPO 法人まちぼっと「市民社会強化活動支援事業」）

助成金通常枠 2 年目の 2021 年は、横浜市内で先進的に多機能に事業を展開している産院 2 か所の見学。8 回の実行委員会。質的・量的調査（ヒアリングおよび、アンケート調査）を実施した。フィージビリティスタディを進め、3 年目の試行に向けて調査結果を分析中。

また通常枠とは別に受託した新型コロナウイルス感染症緊急支援枠は、2020 年 10 月～2022 年 3 月末現在、合計 21 回の「栄養講座」「園活セミナー」を実施し、のべ約 124 名の参加があった。産前産後ヘルパー派遣事業の自主枠の部分に関しても、2020 年 10 月～2022 年 3 月末現在、のべ 224 家庭に 419 活動を提供することができた

（産前産後ヘルパー派遣事業自主事業の部分参照）。

5. 保育事業の運営

認可保育所 ちいさなたね保育園（横浜市補助事業）

(1) 基本データ

① 対象	0歳から就学前
② 実施場所	横浜市港北区師岡町 846-1
③ 開所日時	月曜～土曜 7時30分～18時30分
④ 従業員数	正職16名 非常勤17名
⑤ 事業概要	認可保育所
⑥ 園児数	47名

(2) 報告

終わりの見えないコロナ対応で先が見えず、気持ちを前向きに計画を立てるのが課題になる1年だった。それでも運営委員会の皆さんとの話し合いとお力添えのおかげで、師岡小学校の体育館をお借りでき、「おやこであそぼう」を実施できたのは、ちいさなたね保育園のすべての人が思い出と前向きな気持ちを得ることができた。

アナログだった保育にZOOM、コドモン、アプリの活用などチャレンジをした1年だったが、データの保存の在り方、個人情報管理、著作権問題など勉強しながら、有意義に活用できるようにしていきたい。

1) 研修への参加

①ひとり3講座受講

外部研修がコロナの影響で中止が相次いだため、学びあう機会を失った昨年度、研修にほとんど参加できなかったため、その分も取り返すべく、ひとり3講座以上は参加することを目指し、達成する。

キャリアアップ研修も3人終了し、市、区の研修20講座、外部研修8講座、園内、法人研修2講座を受講し、保育の見直しや、あたらしい情報を獲得することができた。

2) コドモン導入に際し、ICT化による新しい保護者とのコミュニケーションや記録を考える

①コドモンによる配信、アンケート、連絡帳、写真販売などの運用を開始

②書類の見直しを若い世代で検討改善

③全体保護者会、運営委員会、クラス会、お楽しみ会、親子味噌づくり、親子クッキング、育児講座などZOOMを活用することで、対面でできないからやらないのではなく、機会は大事にすることに重点を置いた。参加者からは本当は対面がいいが、ZOOMの良さも感じてきたとの声もあった。

3) 新しい生活様式の中の交流

他施設、他園との交流を開発しなくてはと思いつつ、蔓延防止や、他園の休園などで実現が厳しかった。互いに余裕がないと交流は難しいのだと感じた1年だった。

6. 地域福祉・交流に関する事業

① 地域福祉・交流スペース COCO したのはら（介護予防・日常生活支援総合事業）

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町 1077
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:00
④ 従業員数	5名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型の実施食事を通じた交流づくり日常的な多世代交流の場未就園児のグループ預かり趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース地域連携及びネットワークの強化
⑥ 利用者数	年間利用者数 5505人 1日平均24人

(2) 報告

1) 地域の中で、世代を問わず様々な人が出会い・交流・活動ができる「みんなの居場所」を目指し、ボランティア主体で誰にでも出番があり活躍できる場をつくる。講座を通して地域の方が講師として活動している。夏休みに小学生対象の「したのはら地域子ども塾」を開催。

利用者を中心に手作り品を出店する「COCO マルシェ」、ひと月に1回ガーデンマルシェを行い、学校に行きづらい子どもと親の会が出店するなど好評であった。

- 2) 畑作りや庭の手入れを通して新しい出会いが生まれ、多世代が集まれるしかけをつくった。ランチ・カフェはカフェメニューの充実を行い、売り上げの増加につながった。
- 3) さまざまな役割を担うことで、誰もがその人らしくいきいきと過ごすと同時に、健康づくりや介護予防プログラム取り入れる。横浜市介護予防・日常生活支援総合事業の助成から4年半経過。通所型にプラスして見守り型も実施。
篠原地域ケアプラザと連携し、地域の要支援者等の情報共有を行った。
料理や配膳、片付け、利用者との会話、お庭整備など地域の方が無理なく活躍することができた。
脳トレ健康麻雀は利用者の中から有志が集まり、継続的に行われた。
- 4) 多世代で入園前の子どもたちを見守る。
COCOの一時預かりの季節行事などに地域の方が参加、協力により、子どもにとってより豊かな経験となった。また、これをきっかけに、お互いの距離が縮まった。

② 子育て支援スペース COCO ひよし

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区箕輪町 2-7-60-1B (プラウドシティ日吉 レジデンスⅠ 地域貢献施設「まちなのリビング」隣り)
③ 開催日時	月・火・水・木・金・日 10:00~14:00 (水曜日は6月より開館) 土・祝日：休み
④ 従業員数	8名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 一社) ACTO 日吉と連携したエリアマネジメント ● 子育て支援スペースの運営 ● まんまーる日吉 (グループ預かり事業) の実施 ● レンタルスペースの貸し出しを通じ地域活動支援
⑥ 利用者数	年間利用者数 12129組 1日平均 13組

(2) 報告

1) 親子キッズスペース運営

- ・ 活動内容の発信を定期的に行うことで、レジデンスⅡの新入居者含め、プラウドシティ日吉以外の利用者も増え、多様な子育て世代への居場所の提供、情報提供を行った。また6月より、開館日を1日増やした(水曜日、無料)。日曜日開館ということで、就労家庭、就園家庭、父親、小学生などの利用が定着している。
- ・ 日吉近辺の幼稚園に特化した情報提供講座を有料開催し、親同士の交流を促進した。
- ・ インターン学生ほかとの企画「大学生×小学生交流会」を実施した。
- ・ 子サポ入会説明会を定期的で開催したほか、COCO ひよしでの活動も増え、会員同士の自宅以外での預かりが可視化され、利用につながってきている。
- ・ コロナ下で1周年記念ミニイベントは実施できなかったが、その代替として3月30日に「COCO ひよし子どもまつり」を企画、実施した。

2) イベントスペースの運営

- ・ 定期利用のほかにも、地域で活動する子育てサークルや、就労している親グループの集りなどのスポット利用にも柔軟に対応した。
- ・ イベントスペース利用者へ働きかけて、学童期児童を対象にした受益者負担のイベントを実施した。
- ・ レンタルボックスの活用は設備面の問題もあり実施には至らなかった。

3) グループ預かりまんまーる日吉

- ・ 火曜・水曜・木曜コース(9:30~13:00)で開催。各曜日定員8名。保育者3名、ボランティア数名で実施。定員に達しない日もあったが、親子キッズスペースの利用者との交流もはかり、結果として、それが次年度まんまーるへの利用につながってきている。
- ・ 緊急事態宣言下であっても、感染対策を工夫して行い、預かりを停止せず行ったことで、家庭からの信頼を得られた。
- ・ 月に1回の避難訓練を徹底して「地震対応」としたことで、子ども達の経験値があがり、結果として安全

な預かりにつながった。

- ・ 「まんまー」として、事務のデジタル化を進めた。
- 4) その他
- ・ まちライブラリーは現在登録数800冊を超え、神奈川法人会綱島東支部からの本棚寄贈もあり、環境面も充実をしてきた。
 - ・ COCOひよし、まんまー日吉利用者への声かけを継続的に行い、多様な家庭との連携もできてきており、スタッフやボランティアへの登録のほか、他事業へのつながりも出来てきている。
 - ・ NALCの紹介による清掃ボランティアが活動している。
 - ・ 箕輪小学校との連携事業として、継続的な見学会を実施するほか、小学校からの依頼に応え、授業に参加した。
 - ・ ACTO日吉へ働きかけてOUKAS日吉入居者への「WELCOME Hiyoshi」プロジェクトを企画・実施した。
 - ・ 利用者からの働きかけに応じて、ACTO日吉へ季節の行事を提案し、実施につなげるなど、必要に応じて人材紹介等を行った。
 - ・ YS市庭コミュニティ財団より「ひとりにならない箕輪町P（調査・試行開催）」として、50万円の助成を受け、現在、調査を行っている（2021年10月～2022年9月）”

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103
② 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
③ 従業員数	4名
④ 事業概要	法人全体の財務、労務管理 法人運営に関わる一切の会議開催 学生インターン活動支援 法人内部研修開催 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

(2) 報告

1) 法人運営に関わる一切の会議開催

- 理事会（年4回）
- 運営連絡会（毎月開催）
- 会計チェック（毎月開催）
- 事務担当者会議（年3回）

2) 法人内部研修開催

- 初任者研修
- 個人情報に関する研修
- 食に関する研修
- 全体研修（NPO法人光の子どもたちの会 代表 鈴木真由美／コーチング講師 藤巻理絵）

3) 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

- 会員登録手続き及び管理・・・KINTONEを活用した会員データと寄付者データの一括管理
- 指定NPO法人及び特定非営利活動促進法第44条第1項に規定する認定特定非営利活動法人として必要な手続き及び管理業務（寄付金協力者の管理、寄付金受領書の発行手続き）

4) その他

- 2020年度に引き続き、これまで関わりのあった方々へ寄付キャンペーンを実施した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、総会、理事会、運営連絡会等、多くの法人内会議をオンラインで実施した。
- 新型コロナウイルス感染症に関する対応フローを、感染の状況に応じて変更した。
- 一般事業主行動計画を策定した。
- 規程類の整備に着手し、就業規則や賃金規程は法改正にのっとり改定を実施した。
- 産休・育休、労災、傷病手当等、労務関係の手続きを社労士事務所の協力のもと行った。
- 社労士事務所と月1回のミーティングを実施した。
- 給与の締め日を法人内で統一し、労務管理の効率化に着手した。